

関西圏における地域コミュニティ活性化に関する研究

(有) OM 環境計画研究所 大森 淳平
(株) 日本総合研究所 永 富 聡
奈良県立大学地域創造学部 村田 武一郎
(株) 大林組開発企画部 沢田 裕美子

1. 背景及び目的

我が国では、高度成長期以降、急激な産業化や都市化が進められ、人口および中枢機能の一極集中、モータリゼーションの推進による生活圏の拡大などにより社会構造が変化し、地域コミュニティはそのあり様を大きく変容させてきた。また近年は三位一体の改革により国から地方への権限委譲が進み、地域社会の担い手としての地域コミュニティの位置づけが重要性を増している。例えば、国土交通省では「地域の自立的発展を可能とする国土の形成」を目指して国土形成計画の策定を行い、そのなかでは、地域コミュニティを「新たな公」として位置づけている。

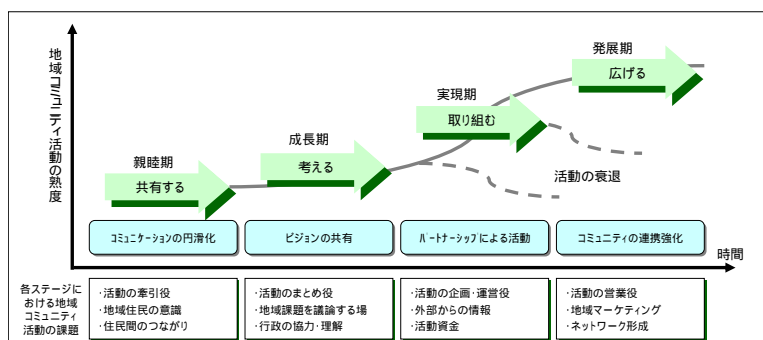
一方、我が国の地域コミュニティ政策は、コミュニティ・センターの建設などのハード支援を中心としたものからソフト支援へと少しずつ軸足を変えつつある。しかしながら、地域コミュニティを捉える視点が整理されていないため、その再構築に向けた有効な手立てが存在しない状況となっている。そのため今後は、地域の抱える課題が多様化していくなかで、自らで課題を解決できる地域コミュニティを再構築していくことが必要となる。

そこで本研究では、地域コミュニティの発展ステージに焦点を当て、その活性化の成功要因を詳細に分析・考察することによって、地域の自立的発展に向けた地域コミュニティ再構築のための方策を検討することを目的とする。

2. 地域コミュニティの発展ステージ

我が国では現在、あらゆる地域でコミュニティ活動が実践されているが、活動を開始したばかりのコミュニティ、数年来の活動を拡大させ NPO 法人格を取得したコミュニティなど、その熟度は多様である。そのため本稿では、プロダクトサイクル¹⁾の考え方をもとに、地域コミュニティの発展ステージを 親睦期、成長期、実現期、発展期、の4段階に分類するものとする。

親睦期は、活動の牽引役により、住民どうしのコミュニケーションを円滑化する時期である。成長期は、活動のまとめ役が行政等の協力を得ながら、地域のビジョンを住民どうしで共有していく場づくりを進める時期である。実現期は、活動の企画・運営役が外部からの助言や資金等を得ながら、パートナーシップにより具体的な活動を実現していく時期である。さらに 発展期は、活動の営業役により、他の地域コミュニティへの働きかけを行いながら、地域コミュニティの連携機能を強化していく時期である。



(資料) 日本総合研究所資料をもとに作成

図1 地域コミュニティの発展ステージ

¹⁾ プロダクトサイクル：製品のライフサイクルが納入期、成長期、成熟期、衰退期と進むにしたがって、当該製品の生産技術が模倣され、生産コストが低下するという考え方。

3. 地域コミュニティの活性化事例の分析

地域コミュニティ活性化の事例として和歌山県日高川町と奈良県高取町での取組みの概要を示し、地域コミュニティの発展ステージのステージアップに重要なポイントを記述する。

(1) 和歌山県日高川町における取組み

和歌山県日高郡日高川町（平成17年5月1日に川辺町、中津村、美山村が合併）は、和歌山県のほぼ中央部に位置しており、町の約9割は林野で占められ、東の山間部から西の平野部へと地形が変化し、四季の変化に富んだ風光明媚な景観を呈している。また、みかんをはじめとした農業や紀州材として林業が盛んな地域であり、安珍・清姫伝説で有名な和歌山県下に現存する最古の寺「道成寺」など歴史や伝統等が残されている。

同地域はこれまであまり注目を集めてこなかったが、近年住民が主体となって地域の資源を活用した地域活動に取り組み、平成18年には「関西元気文化圏賞」のニューパワー賞を受賞している。本地域の取組みの成功要因の一つに、一人のUターン者の存在があり、このUターン者が親睦期から発展期までの各段階のステージアップに重要な役割を果たしている。

親睦期から成長期においては、地域でのイベントや会合に積極的に参加し、地域での協力者を得るための基盤を固めている。また、これまでの都市部における知識や経験を生かして地域の現状について調査し、地域課題の解決に向けて自ら地域活動に着手し始める。成長期から実現期においては、自らが地域リーダーとなり、活動の企画・運営を行うとともに、住民の取組みのまとめ役も担っている。ここで、地域住民の協力を得るにあたって、自分自身が楽しむこと、自分の周囲が楽しめる企画の提案を行っている。また、自ら行政に働きかけることで行政の意識の変革を生みだし、行政職員との信頼関係を築き、支援を得るまでに至っている。さらに、都市部での営業経験を生かして外部へのPRや他の地域コミュニティとの連携など活動を発展させている。

(2) 奈良県高取町における取組み

奈良県高取町は、橿原市や明日香村の南に位置する典型的な中山間地域である。斜面に位置する農地が多く、労働の効率化が図れず耕作放棄された農地が増えてきている現状にある。また、米の消費量低迷に伴う減反が進められているが、転換作物への作付が進まず、農地が遊休化するという悪循環に陥っている。

こうした現況に、行政職員のみならず地域住民も危機感を持ち、近年地域住民による地域活動が進められようになった。その活動の一つとして、高齢者を中心とした地域住民によるコミュニティビジネスがある。本取組みでは、黒大豆を使った味噌の開発に乗り出し、地域で生産した黒大豆を地元で消費する地産地消のサイクルの構築を目標として活動しているが、地域課題である遊休農地の解消についてはその糸口を見出しつつある。本取組みの成功要因としては、定年まで都市部の百貨店で勤務された地域リーダーの存在がある。

本地域での取組みは、地域リーダーのこれまでの経験から都市部の消費者のニーズを的確に把握しており、地域リーダーが声をかけて身近な協力者を集めて活動を始めている。地域住民が行政にもお金がないことを理解しており、メンバーでお金を集めて活動している。その一方で、地域リーダーと行政との間に信頼関係があるため、場の提供など最低限の行政からの支援は受けている。また、農業に関しては素人であったが、農業経験者や外部の専門家に教えてもらい、取組みを進めていくとともに、土地を無償で借りるなど地域住民から様々な形で協力を得られるようになってきている。現在販売が順調に伸びており、道の駅など独自の販売ルートを開拓するなど取組みの発展期にあるが、地産地消が前提となるため、今後の推進体制を考えていくことが望まれている。

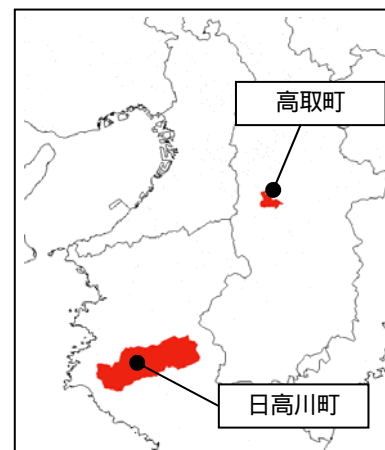


図2 位置図



写真：日高川町の取組み
[道成寺における釣鐘の里帰りイベントの開催]



写真：高取町におけるコミュニティ活動

4. 地域コミュニティ活性化に関する考察

ここでは前章で述べた地域コミュニティ活性化の事例をもとに、今後の地域コミュニティの活性化のポイントとして、特にその活動を推進していく人材について考察を加えるものとする。

(1) 親睦期から成長期に求められる人材

地域コミュニティ活動においては、地域が危機的状況にあるにも関わらず誰も行動を起こさない、地域住民は誰かが行動し始めるまで事態を傍観している、という状況がよく見られる。

こうした状況の下では、地域コミュニティを活性化し、地域住民の自主的な活動を促進するために、地域での課題に気づき、その課題解決に向けて率先して活動を進める「ソーシャルアントレプレナー(先走りするバカ)」の存在が必要と考えられる。特に、前章の事例にあるように、地域外での知識や経験を有するUターン人材等は、地域外の状況を良く知っているため、地域活動を正しい方向に牽引できると考えられる。

また親睦期から成長期へのステップアップのために、こうした「ソーシャルアントレプレナー」が地域住民に受け入れられる必要があるが、それには旧来の地域社会のリーダーとのつながりを形成することが重要と考えられる。日高川町の事例におけるキーパーソンは、地域での多くのイベント・会合に参加して、こうした旧来の地域社会のリーダーと調和しながら活動を進めている。

(2) 成長期から実現期に求められる人材

地域コミュニティ活動を実現させるためには、地域のまとめ役として、地域に信頼されるリーダーの存在が必要である。特に「ソーシャルアントレプレナー」が多くの協力者を得ながら、地域リーダーとして信頼されることは、地域コミュニティ活動を推進するうえで重要である。さらに、地域に信頼されるリーダーとは、私心がなく無償で地域に貢献しようという思いを持った人材であることが、地域での多くの協力を得られる重要なポイントとなる。こうした信頼される地域リーダーが地域のまとめ役を担い、活動の企画・提案を行っていくことで、地域住民の意識が高まり、これまでは地域活動に取り組む積極性のなかった地域住民の協力が得られやすい。

また、地域コミュニティ活動の実現には、資金面や活動の場など多くの場面で行政の支援が必要となる。しかしながら、多くの地域では行政に頼っていても何も進まない、話が前に進まないなどの不満が聞かれ、このような地域には信頼される行政スタッフが存在しないことが多い。そのため、地域からも行政スタッフの意識を変えるよう働きかけ、地域住民と行政との信頼関係を築いていくことが重要と考えられる。2つの事例でも、行政スタッフが休日も、地域コミュニティ活動を支援する前向きな姿勢が見られる。

(3) 実現期から発展期に求められる人材

地域コミュニティ活動が実現され成功すると、多くの場合、一時的に地域コミュニティが活性化される。その一方で、こうした活動を継続していくと、地域リーダーの一人よがり、参加するメンバーが固定化されるといった状況に陥り、活動が衰退していくケースも多い。地域コミュニティをさらに強固なものとするためには、活動に新たな息吹を吹き込み、刺激を与えていくことが重要である。そのためこの段階では、他の地域コミュニティに働きかけを行うなど、営業力を持った地域リーダーの存在が必要と考えられる。さらに、地域の人々に刺激を与える「若者」も存在すれば、なおさら地域活力が醸成されていくと考えられる。

(4) 地域での取組みを一貫して指導できる人材

地域コミュニティを活性化し、地域を自律的に発展させるためには、前述のような人材が必要であるが、その他にも、専門的知識やノウハウをもつ「よそ者」、すなわち、計画・自然・景観・産業・生活文化などの専門的知識を持った地域プランナー・地域コーディネータの支援が重要と考えられる。

地域プランナーは、計画の対象とする地域の社会経済の現状、自然環境などの地域資源を調べ、地域の歴史的特性を把握したうえで、問題点を整理し、問題点の解消策を模索しつつ、社会経済情勢を勘案して、将来像を検討する。次いで、その実現に向けての課題を抽出し、課題解決のための仕組み、政策・制度、基盤施設とその運営方法などを明らかにし、さらにその具体化を行う。地域コーディネータは、将来像を探るために、地域の人々の思いを引き出す、将来像を実現する過程において、地域の人々の関わりを調整・促進する、将来像を実現する過程において、地域外の専門家・関係機関を導入し、地域の人々との共働関係を構築するなど、地域の将来像の確立とその実現の過程で、様々な支援・調整を行う。

地域プランナー・コーディネータとして重要なことは、地域の人々の思いを十分に汲み、そのポテンシャルを十分に引き出すことである。そのため、地域に密着した十分な調査活動が必要である。さらに、多くの問題意識を常に持ち、その問題意識を通して計画理念を確立するとともに、課題解決の優れた手法を開発し続けていくことが重要と考えられる。

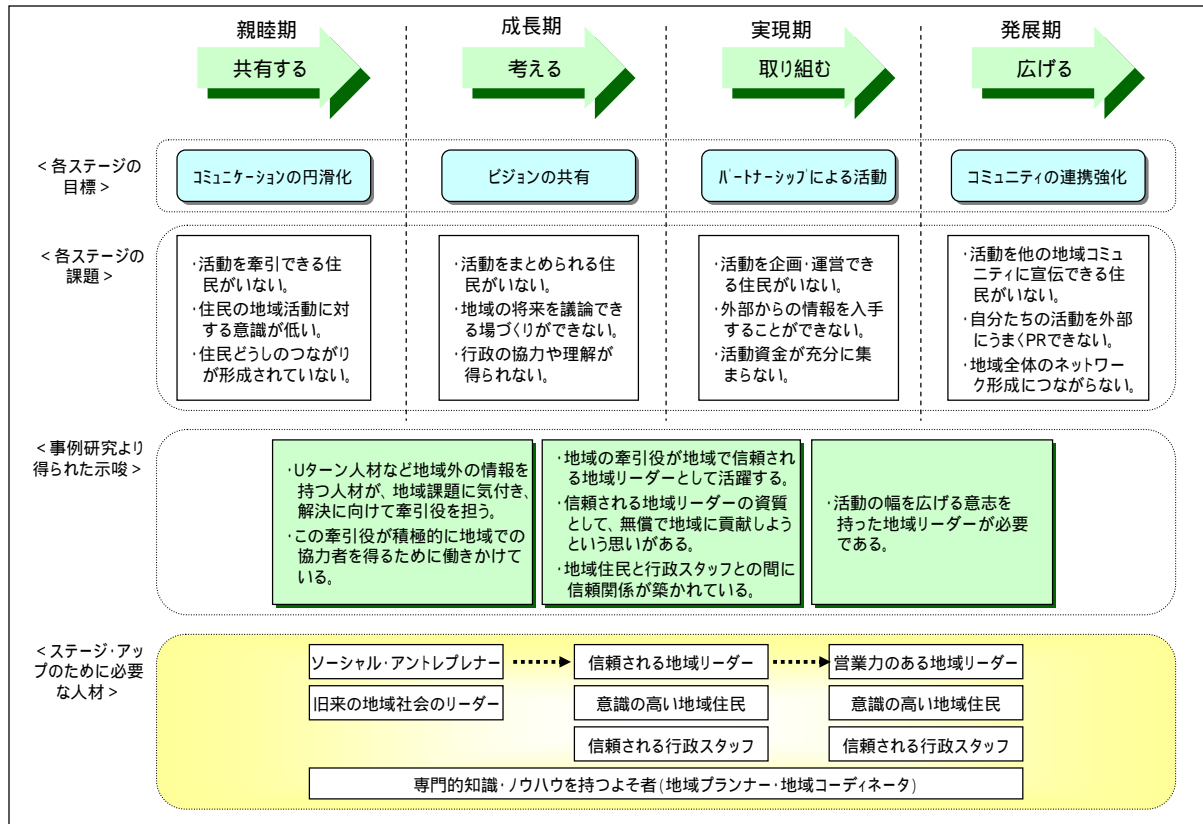


図3 発展ステージのステージアップに求められる人材

5. まとめ

本研究では、関西圏における地域コミュニティ活性化の事例をもとに、地域の自律的発展に向けた地域コミュニティの活性化に重要な人材について考察を加えた。

その結果、地域コミュニティの活性化に向け、親睦期～成長期において「ソーシャルアントレプレナー」、「旧来からの地域リーダー」、成長期～実現期において「信頼される地域リーダー」、「意識の高い住民」、「信頼される行政スタッフ」、実現期～発展期において、「営業力のある地域リーダー」の存在がそれぞれ必要であることがわかった。また、こうした活動に対して、専門的知識やノウハウをもつ「よそ者」（地域プランナーやコーディネータ）の支援が重要であることを指摘した。

本稿はこうした地域コミュニティに必要な人材像と現実を照らし合わせ、より効果的な地域コミュニティ活動が推進されることを願うものである。

【謝辞】

本研究を進めるにあたり、取材にご協力いただきました日高川町観光協会様、日高川町役場様、高取町ふれあい加工部様、高取町役場様に感謝の意を表します。また、本資料の作成にあたり、ご助言をいただきました関西地域創造研究会の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

【参考文献】

- 1) 山崎丈夫(2003)「地域コミュニティ論」自治体研究社
- 2) 神木哲男他(2003)「地域創造へのアプローチ」IBC コーポレーション
- 3) 兵庫県県民生活審議会(2005)「県民交流広場事業(仮称)モデル事業検証報告書」
- 4) 直田春夫(2005)「コミュニティの再生をめぐる」21世紀ひょうご, 93, 29-44